

二具、又有枕筥等屏風二十帖、几帳二十基云云、希有之希有事也、文集雜興詩云、小人知所好、懷寶四方來、奸邪得藉手、從此幸門開、古賢遺言仰以可信、當時大閣德如帝王、世之興亡、只在我心、與吳王其志相同、廿六日丁巳、入夜宰相重來云、參大殿○藤原道長被坐上東門第、被行寢殿御裝束、并立石引水等事、攝政已下被參入、主人昇降容易、甚以輕々、卿相追從、寸步不忘、家子達令曳大石、夫或五百人、或三四百人、然間京中往還人不靜、追執令曳、不示堪、男女亂入下人宅、放取戶并支木屋、壓木敷板等、以敷板戶等敷石下爲轉料、日來東西南北曳石之愁、京內取煩愁苦無極、又止養田之水、強壅入家中、嗟乎嗟乎、不念稻苗死歟、可詠文集雜興詩、尤爲鑒誠、

〔紫式部日記〕御いかは霜月のついたちの日、れいの人々のまたてゝのぼりつとひたる、御前の有さま繪にかきたる物、あはせの所にぞいとよりにて侍し、○中こよひ少輔のめのだいりゆるさる、こゝしきさまうちしたり、みや○後一條いだき奉れり、御丁のうちにてとのうへ○藤原道長妻倫子いだきうつし奉り給て、るざりいでさせ給へり、ほかげの御さまけはひこと、にめでたし、あかいろのからの御ぞ、ちすりの御裳、うるはしくさうぞき給へるも、かたじけなくもあはれにみゆ、大みや○道長女一條后彰子えびぞめの五への御ぞ、すはらの御こうちきたてまつれり、殿もちひはまゐり給ふ、○中ことはつるまゝに、宰相のきみにいひあはせて、かくれなんとするに、東おもてにどのゝきんだち宰相中將○兼隆など入てさわがしければ、ふたりみちやうのうしろに、かくれたるを、とりはらはせ給て、ふたりながらとらへすゑさせ給へり、わかひとつづゝつかうまつれ、さらばゆるさむとの給はす、いとほぢておそろしければ、きこゆ、
いかにいかにかぞへやるべき八千とせのあまり久しき君がみよをば、あはれつかうまつれるかなど、二たびばかりすせさせ給て、いとどうのたまはせたる、

蘆たづの齡しあれば、君がよの千歳の數もかぞへとりてん、さばかりゑひ給へる御こゝちに